

自民党総裁選は大乱戦

刷新感を出せたか

政治アナリスト
元杏林大学教授

豊島典雄

進次郎にコバホーク

暑い暑い夏だった。気温だけではなく。宮崎県沖での地震を受けて大地震注意報が出て、不安にかられた消費者が米などの買いだめに走り、米売り場が空っぽになった。

政界では岸田首相が8月14日に自民党総裁選への不出馬を表明した。

岸田首相には、敵基地攻撃能力の保有、防衛費の倍増、原発処理水の海洋放出、広島サミットの成功、賃上げを実現したという自負心があった。しかし、国民の7割以上は9月末の任期満了までの退陣を求めている。この民心を理解できなかったのではないか。人間は「見たいものしか見ない」(カエサル)のである。

ポスト岸田が本格的に動きだし、話題の進次郎、コバホーク(小林鷹之衆院議員)も出馬表明した。総裁選劇場は盛り上がり、永田町ウォッ

チャーは大忙しである。

そして9月は自民党総裁選(9月12日告示、9月27日投票)、立憲民主党代表選挙(9月23日投票)である。

もちろん、盛り上がったのは自民党総裁選の方である。序盤戦は小泉進次郎氏が先行しているが誰が日本丸の船長になるのか。習近平、プーチン等の大国のリーダーと渡り合える胆力と大局観を持った首相の誕生を期待したい。

世論調査は

今の民意はどうか。

時事通信の世論調査(8月8日)では、内閣支持率19・4%(3・9%増加)、不支持率53・6%(4・8ポイント下落)。

次期衆院選の比例区の投票先は、自民党28・8%、立憲民主党9・9%、維新の会6%。

政党支持率では、自民党19・9%(3・9ポイント増加)、立憲民主党3・7%(2・6ポイント下落)、維新の会1・8%。

共同通信の世論調査(8月19日)では、岸田首相の後継にふさわしいのは、石破茂元幹事長25・3%、小泉進次郎元環境相19・6%、高市早苗経済安全保障担当相10・1%。

自民党支持層では、小泉進次郎元環境相24・2%、石破茂元幹事長21%、河野太郎デジタル相11・2%。内閣支持率26・1%(1・5ポイント増加)、不支持率67・4%で岸田内閣では最も高かった。

次期衆院選比例代表の投票先は自民党37・1%、立憲民主党15・2%、日本維新の会8・4%。

総裁選効果

日本経済新聞の世論調査(8月22日発表)では、次の自民党総裁に相

応しいのは小泉進次郎元環境相23%(8ポイント増加)、石破茂元幹事長18%(6ポイント下落)。7月の世論調査と入れ替わった。3位は高市早苗経済安保相11%(3ポイント増加)。小林鷹之衆院議員は8%(7ポイント増加)。

自民党支持層では小泉進次郎32%、高市早苗15%、石破茂14%。

また、8月22日の日本経済新聞の世論調査では、次期衆院選で投票したい政党は自民党39%(9ポイント増加)、立憲民主党11ポイント(2ポイント下落)、維新の会10ポイント。

総裁選効果で自民党が息吹き返した形だ。自民党は得意の擬似政権交代と世代交代ムードで復調の兆しである。

8月25日発表の読売新聞の世論調査では、次の自民党総裁にふさわしいのは、自民党支持層で小泉進次郎22%(14%)、石破茂20%(23%)、

高市早苗14% (10%)、河野太郎9% (9%)。上川陽子6% (6%)、小林鷹之6% (1%)。

8月25日発表の朝日新聞の世論調査では、次の自民党総裁にふさわしいのは自民党支持層で、小泉進次郎28%、石破茂23%、高市早苗12%、河野太郎8%、上川陽子7%、小林鷹之5%である。本命進次郎、対抗石破茂といった構図である。

「人は見た目が9割」と言われる。「人氣」の進次郎が先行しているが、政策論争を経てどうなるか。自民党総裁選の有権者(国会議員と自民党黨員)を納得させられる実力がともなっているか。大局観や胆力を示せたか。政策は「クール」や「セクシー」では済まない。

昨日の友は今日の敵

自民党総裁選には、四十代の小泉進次郎に、小林鷹之衆院議員等12人が出馬に意欲を示したので世間の関心をひきつけ、テレビ報道も独占、メディアジャックである。

だが、自民党総裁選に意欲を示した人にも様々な誤算が見えた。
①石破茂元自民党幹事長は菅義偉前

首相の支援を期待したが外れた。

②前回の自民党総裁選で、高市早苗経済安保相の推薦人だったコバホークが、今回は出馬表明し、保守票が割れた。

③岸田派からはNo.2の林芳正官房長官の他に上川外務大臣も出馬に意欲を示した。

④茂木幹事長は派内から、加藤勝信元官房長官が出馬に意欲を示した。また、麻生太郎副総裁の支援を期待したが、得られない。

⑤前回は河野太郎氏を小泉氏や石破氏が支援する小石河の連携が見られたが、今回はそれぞれ出馬である。以上、外野からは面白いが、当人には思惑違いである。「昨日の友は今日の敵」である。政界一寸先は闇である。

私にも永田町関係者から

「総裁選に我も我も何人も出てきて、何人も出てきた都知事選のようです。顔ぶれをみるとどの人が総理総裁になっても短命に終わりそうです」

「身の程知らずもいろいろ、その気になってしまい我を見失い勘違いしている者がいます」

「彼等に強靱な精神力、忍耐力があるのでしょうか」。

「幹事長、大蔵(財務)、通産(経済産業)大臣を経験せずして、総理総裁候補に名が挙がる時代には驚きです。マスコミによる人気投票のような総裁選報道には辟易です」との声が寄せられた。

合従連衡

自民党の蘇秦、張儀は誰か? 合従連衡は、中国の戦国時代の蘇秦の合従策と張儀の連衡策を併せて言う。状況に応じて各勢力がついたり離れたりするさまをいう。

自民党総裁選には、12人が出馬に意欲を表明し、大乱戦模様になり、過半数をとるものではなく、決選投票になるだろう。

そこで、現代の軍師、蘇秦、張儀の輩の登場となる。昭和の時代の総裁選なら黄白(お金)が乱れ飛んだ。推薦人集め、票集めに実弾(お金)が使われた。それが、疑獄事件にもつながった。今の政界は金欠気味、総裁選の武器は、自民党や政府の要職、ポストの提示だ。

「色男、金と力はなかりけり」。合従連衡は色男、人気者である候補者の仕事ではなからう。その際に、大きな役

割を果たすのがキングメーカーと言われる実力者や軍師である。

新内閣は即、衆院解散?

新内閣は裏金問題や連続するスキャンダル(不倫、公設秘書給与詐取等)で失った信頼を取り戻せるか?

政策は国家に静かな死をもらす超少子化対策、失われた30年からの脱却を目指す経済活性化策、自民党結党以来の悲願の憲法改正が課題である。前提として、裏金問題で失った国民の信頼を取り戻すための自民党改革、政治改革がある。

また、総裁選をきっかけに派閥の再編成になる。政権運営も楽ではない。自民党は総裁選で、有権者に擬似政権交代と世代交代を見せられたか。刷新感が出せたとしても、不安もある。

①人氣先行で総理総裁を選出して短命政権になることはないか。
②刷新感が続くか? 新政権と国民やマスコミとのハネムーンは長くは続かない。

③新内閣はご祝儀ムードの中で即時衆院を解散し総選挙に持ち込めるか?